

中国の少数民族—ウイグル族と私

東京学芸大学大学院 デイリバイル・アイリ

日本との出会い

私は中国の新疆（シンチヤン）ウイグル自治区からきた留学生で、中国の少数民族の一つであるウイグル族であり、現在東京学芸大学大学院に在学している。私の故郷は観光地として有名なトゥルファン（吐魯番）で、毎年外国から大勢の観光客がやってくる。その大半が日本人観光客で、昔から当地のウイグル族と交流がある。私は小さい頃から日本人に対して、熱心で頭がよく、礼儀を重視するという印象をもっていた。その後、日本の文学作品を読む機会もあり、日本の文化や歴史に対して興味をもつようになった。大学を卒業し、研究を続けるために留学することになって、留学先に迷わず日本を選んだ。

ウイグル族

ウイグルは「連合・団結」という意味でウイグル族の自称である。ウイグル族は悠久なる歴史と輝かしい文化をもつ。民族音楽、伝統的手工芸は豊富多彩で、歌と舞踊が得意で、明朗、情熱的である。おもに中国の西北部に分布しているほか、カザフスタン、ウズベキスタン、トルコなどにも少数居住する。人口は1000万弱。ウイグル語を話し、伝統的にはオアシスに定住して農耕や商業に従事する。イスラームを信仰する民族である。

ウイグル族は長い歴史の発展の中で食生活、服飾、祭り、礼儀作法などの方面で独特な風俗・習慣を形成したのである。

ウイグル族は漢民族と違って、豚肉・犬・ろばなどの肉、生肉、動物の血のついたものなどを食べない。牛・羊の肉類や乳製品を食べ、小麦粉で作った食物を主とし、主食の種類は数十種類ある。最もよく食べるのはナン、ポロ（羊肉入りにんじんピラフ）、まんじゅう、ラーメンなどである。ウイグル料理の王様—ポロは最も人気のある伝統的な料理である。賓客や冠婚葬祭などの儀式では、客人たちにもてな



毎日食べているナン

される。

普通はお盆に盛り、手で食べる。麺は日常生活でウイグル族の最も好む主食の一つである。ラグマンというウイグルの麺料理は上に野菜炒めをかけて食べるが、形は日本のうどんに似ている。その他、ウイグルの特有の調味料—ズランを使ったシシカワプ（羊肉の串焼き）は外国人観光客にも人気が高い。

ウイグル族は花を好み、草花を栽培するだけではなく、各種の草花の図案を服に刺繍する。女性の服には襟ぐり・胸元・袖口・肩・ズボンの裾など、男性の服には、シャツの襟ぐり・胸元・袖口などに刺繍し、ウイグル族の濃厚な装飾の美感を表現する。ウイグルの女性は、鮮やかな色の絹織物あるいは毛織物で作られた衣装をよく着る。とくにウイグル族の独特のアトラスシルクで作られたワンピースが好まれている。色合いは明るく美しく、濃厚で華麗である。女性がかぶる花柄の帽子は、とても美しく、図案と紋様は千変万化で、地方によって特色がある。



独特なアトラスシルク



花柄の帽子

ウイグル族は祭りを非常に重視する民族で、伝統的な祭りとしてクルバーン祭（屠殺祭）、ロウーズ祭（断食祭）、ノルズ祭（春分）、マシュラップ（収穫祭）などがある。その中でもとくにクルバーン祭が最も盛大である。「クルバーン」は「犠牲」「献身」の意味であり、ムスリムの祭りだ。朝、すべての男性はモスクに行き礼拝をし、その後お墓参りに行く。すべての家で羊を「捧げもの」として殺して、羊の皮、羊の腸をモスクと宗教家に渡し、残りの肉は煮て、客にふるまう。そして各種の菓子などを作る。祝日の期間は皆が新しい服を着て、新しい帽子をかぶって、互いに節句のお祝いを述べて祝賀する。

その他、ウイグル族の母語であるウイグル語はアル

タイ諸語に属するチュルク諸語の一つで、ウイグル自治区を中心に使用される。ウイグル文字を用いるウイグル語は32の字母をもち、八つの母音の字母、24の子音の字母があって、右から左へ横書きにする。32の字母は実際には126種類の書き方を有する。

新疆ウイグル自治区

現在、ウイグル族はおもに中国新疆ウイグル自治区に集中的に居住している。新疆ウイグル自治区は中国の西北辺境、ユーラシア大陸の中心に位置している。自治区の総面積は166.49万km²で、中国国土面積の6分の1に相当する。周辺は8か国と国境を接し、中国で最も長い国境線を有している。新疆の地形の輪郭は「三つの山脈が二つの盆地を挟む」という特色を有している。「三つの山脈」とは北部のアルタイ山脈、中部の天山（テンシャン）山脈と南部の崑崙（クンレン）山脈・カラコルム山脈である。「二つの盆地」とは北部のジュンガル盆地、南部のタリム盆地である。天山山脈を中軸として、新疆は北疆、南疆という自然条件が明らかに異なった二つの地域に分けることができる。トゥルファン、ハミ一帯を東疆と呼ぶこともある。

新疆ウイグル自治区の総人口は2010.4万（2005年現在）、多民族地区で47の民族が居住している。漢民族は新疆各地に分布しており、人口約795.7万あまり、新疆人口の約39.58%を占めている。漢民族以外の民族は1214.7万あり、そのうちウイグル族の人口は923.5万あまりで、新疆の総人口の45.94%を占める。新疆ウイグル自治区でウイグル族は多数の地区に分布し、ウルムチ、天山以南のカシ（カシュガル）、ホタン、アコスーおよび東疆地区のハミ、トゥルファンなどの地区にも集中している。

「緑色の真珠」—トゥルファン

次に新疆ウイグル自治区の中で、“シルクロードの緑色真珠”と呼称される、私の故郷—トゥルファンを紹介したい。

中国と地中海世界の間の歴史的な交易路—シルクロードの新疆を通るルートは南、北、中の3本の主路に分かれ、トゥルファンは中路に位置する。“トゥルファン”はウイグル語の「くぼんだ土地」の意味である。シルクロードはハミを経て西へ進み、天山山脈入りしてから、トゥルファン盆地に入る。トゥルファン盆地は山の間の盆地で、天山山脈の東端に位置する。地表の大半は海拔500m以下で、市の南にあるアイディ

ン湖は、湖面が標高-154mと、世界で2番目に低い所にある湖である。トゥルファンは古くより交通の要所であり、シルクロードの要所として栄えた。トゥルファン市はトゥルファン盆地の中央に位置する。

トゥルファンは古来「火州」と呼ばれ、降水が少なく、乾燥しているため、中国の中でも暑いところである。毎年、35度以上の高温日はおよそ100日間も続き、記録では49.6度を越えた日もある。一方、ここでは年間の降水量はわずか16mmしかなく、蒸発量は3600mmもある。地下には天山山脈の雪解け水を地下水路でトゥルファンまで誘引するカレーズ（地下水路）があり、人々に水を運んでいる。

トゥルファンは観光資源が豊富である。西域の仏教文化芸術の宝庫といわれるベゼクリク千仏洞。世界的にも規模が大きく歴史が古い生土建築の遺跡の交河古城、典型的なウイグル族の建築様式を保ち、新疆地区で現存した最も大きな土木構造の古塔の蘇公塔、古代中国の西北地区における政治、経済、文化の中心地の一つで、シルクロードの要衝でもあった高昌古城の遺跡、アスターナ古墳群、万里の長城・京杭大運河と共に、中国古代の三大人工奇跡とされる地下の大運河のカレーズなど、32か所以上の観光資源を有する。

観光以外では農業が主であり、ぶどう・綿花・ハミウリが特産。トゥルファンでは「無核白」と呼ばれる緑色の種なしぶどう、細長い緑色の房が特徴の「馬ダイ子（馬の乳房）」、赤ぶどうなど200種類のぶどうがある。その中でワインに適した品種、漢方薬にする品種と様々なぶどうがあって、とくに「無核白」の干しぶどうは甘酸っぱく、「中国の緑の真珠」と呼ばれている。また、毎年8月の下旬には、ぶどうの収穫を祝うぶどう祭りが開催され、国内外から大勢の観光客がトゥルファンに集まり賑う。ぶどう祭の期間、市内の至るところでウイグル族独自の音楽・舞踊などを見物しながら、マクワウリ・スイカなど多く種類の果物を味わうことができる。

時代の発展につれて、ウイグル族は生活、習慣などの面で様々な変化があったが、独自の民族文化を大切にしながら、新しくすばらしい文化を作るために努力している。または、新疆の各民族と共に、21世紀における新疆ウイグル自治区の社会経済発展の新たな局面を切り開き、安定して調和がとれた小康社会（いくらかゆとりのある社会）を建設するために奮闘している。